

## 編集後記

お日様の恵みを受けててらと光る茄子が汗滴る夏の喜びを体感させてくれる頃合となりました。

家庭菜園にて自製した野菜の中で日頃スーパーなどで仕入れてくる代物と決定的な違いを見せてくれる物の代表選手は胡瓜でしょうか。菜園を始めた頃、畑の土の中に力一杯伸ばした根から吸いあげた滋味が充満する胡瓜を初めて食べたとき、今までいったい何を胡瓜と呼ばされて来たのかと愕然としました。売り物は図体はでかくて立派ですが菜園で取れた物とは比べ物にならないほど水っぽいのです。つまり最低限の肥料を混ぜた水をガバガバ与えてやれば見かけだけはどんどん育って、効率よく出荷できるということなののでしょうか。目先の効率のみを追求する社会の中で我々は胡瓜本来の味を徐々に忘れさせられて、ついには張りぼてまがいの代物を正常な物と誤解するところまで来てしまったようです。

さて、我々人間社会の再生産システムの根幹を担う教育制度について昨今色々なことが取り沙汰されています。各発達段階での然るべき質を問わずに、先達として後進を引きずる義務をおごなりにしながらの現状追認をゆとりだの多様だのと意味不明瞭な言葉にすり替え、価値ある物を名だけ残して内容を希薄にし、みんなが高等教育を享受するという自己矛盾したキレイゴトで固められた恐るべき社会。そこに育つものに水膨れの胡瓜と何の違いがあるのでしょうか。

(Y. S.)

### [お詫びと訂正]

物性研究 Vol. 72 No. 2 (1999年5月号)に以下の間違いがありました。

お詫びして、訂正いたします。(物性研究刊行会)

○ 砂山における Segregation と Stratification の形成過程 (野口 真保)

103 ページ Figure 3 と Figure 4 の写真が逆になっています。